

## コロナ禍の過ごし方

—今こそ本格的な読書に挑戦、読書習慣を！！—

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) おはようございます。開倫塾の塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2) この「開倫塾の時間」は、効果の上がる勉強方法を、社会人を含め聴取者の皆様とご一緒に考える番組です。毎週1回土曜日に放送、今年の3月第1週で35年目に入りました。ありがたい限りです。
- (3) 本日の「開倫塾の時間」では、最初にコロナ禍のお話を少しさせていただきます。続いて、「コロナ禍での過ごし方」、「今こそ本格的な読書を。コロナ禍で『読書習慣』を身に着けよう！！」です。

\*ピンチをチャンスに、このコロナ禍を「弾み車」に「本格的な読書」に挑戦。「読書習慣」を身に着け、知性ととともに、一生役に立つ「読書」という「学習習慣」を身に着けようというものです。



2. (1) 昨日、8月13日(金)の全国の新規感染者数は20365名と初めて2万名を超えました。東京都の新規感染者数は5773名、栃木県174名、群馬県252名、茨城県335名と、1日の感染者数としては過去最多です。
- (2) まだ接種の終わっていない方はもちろん、2回接種の終わった方も、「マスクの常時着用」「検温」「指先ごしごし洗いを含む、手洗い」「換気」「不要不急の外出を控える」など「万全の感染対策」をいたしましょう。
- (3) 「感染」「発症」「重症化」に、「ワクチン2回接種」は極めて効果があります。医師の指導の下、「ワクチン接種券」が届いたら、速やかにワクチン2回接種をいたしましょう。



\*これは戦争と同じです。「自分の健康は自分で守る」、「自分たちの社会は自分たちで守る」。「高い志」「志を高く」持ち、みんなでこのコロナ禍と戦ってまいりましょう。

## 3. &lt;読書の基本&gt;とは

(1) 「1冊の本は、まず100ページまで我慢して読む」

- ①普通の本は、250ページから300ページくらいです。
- ②折角ですから、まずは100ページまで、歯を食いしばって、我慢して読み終えることです。
- ③100ページまで読み終えれば、どのような内容かがうっすらわかってきます。

(2) 「1冊の本は、最後まで読み切る」

- ①「本は最後まで読み切る」ことが大切です。



②最後まで読み切らないと、作者が言いたいことがわからないことが多いからです。

③ドキドキしながら、本は最後まで読み切る「習慣」を身に着けましょう。

(3)「本の余白に書き込みながら、『作者との時空を超えた対話』を！！」

①大切な語句、大切な固有名詞(氏名や地名)、大切な年号には、横線を引く。

②言葉の定義、作者の考えを述べたところは、かぎかっこを付ける。

③登場人物が出てきたら、どんな人か・その関係は何かを頭の中で整理しながら、「人物相関図」を表紙近くの空いているページに作り、絶えず参照しながら本を読み続けると、どんどん読書が進みます。

#### 4. (1)「マージナリアを」

①読んでいて、作者に言いたいこと、感じたこと、コメント、思いついたことがあったら、なんでもOKですから、本の余白に書き込む。本の余白に書き込むことを、英語で「マージナリア」というそうです。

②どんどん「マージナリア」を行うことが、「作者との時空を超えた対話」につながると考えます。

③「思索をめぐらすこと」「読書による思慮深さ」「省察」に結び付きます。

#### (2)「これぞという本は、5～6回読む」

①何回か読み、大切と思われるところは「ノートに書き写す」。「書き抜き読書ノート」を作る。

②「ものを学ぶために本を読む」とときには、意を決して「ノートを取りながら本を読む」。

③「ことば」「語句」の「意味」「定義」は「ノートに書き写す」。そして、「理解」を深め、「理解したことは、引き続き音読・暗唱」することをお奨めします。

(3) ①楽しみのための読書なら、1冊読み終えて、気に入った「文章」を数行、気に入った「ことば」「語句」をいくつか書き写すだけで充分「作者との時空を超えた対話」となります。

②このように作った「書き抜き読書ノート」を折に触れて読み返すと、考えが深まり、「作者との時空を超えた対話」が自分のものとなってきます。

③「経験」「思想」「人格の基礎」となります。



#### 5. <一人の作家・著者が気に入ったら、代表的な作品に挑戦を !! >

たとえば、「夏目漱石」をどう読むか。

##### 一事例研究一

(1) ①学校の教科書で「坊ちゃん」の一部を読んで面白いと思ったら、「坊ちゃん」を最初のページから最後のページまで全部読む。「坊ちゃん」は、新潮文庫で、本文だけなら138ページです。どうかゆっくり1～2週間かけて、できれば1か月かけ、行きつ戻りつ読むことをお奨めします。

②「坊ちゃん」を読み終えたら、「三四郎」「吾輩は猫である」と、それぞれ1か月、否、2～3か月かけ、ゆっくりゆっくりとお読みになることをお奨めします。

③「虞美人草」「坑夫」「それから」「彼岸過ぎまで」「行人」「こころ」「明暗」など、同様に、2～3か月かけて、ゆっくりゆっくり行きつ戻りつしながらかみしめるように読む。なぜか。夏目漱石の作品の大半は、朝日新聞に長期間連載された小説だからです。読者が

毎日 1 章ずつ読むことを前提に書かれていますので、読むときも 1 章ずつ丁寧に読んでいくと、「著者との時空を超えた対話」がうまくできます。

- (2) ①漱石は、小説家ではありますが、講演の名手でもあります。「私の個人主義」「現代日本の開化」など、高校の教科書でもずいぶん紹介されました。大学入試でも山ほど出題されました。
- ②多くの日本人がこの講演速記録を読み、深く考え、ではどうしたらよいか思いを巡らせました。日本人に最も影響を与えた講演です。
- ③漱石はまた、エッセイの名手でもあります。晩年の随筆「硝子戸の中」「思い出すことなど」は、親友の正岡子規の「病床六尺」「墨汁一滴」「飯待つ間」などを思い起こさせます。
- (3) ①漱石は、第 5 高等学校教授のときに、政府から 2 年間のイギリス留学(日本初の国費留学)を命じられ、18 世紀イギリス文学の研究に没頭しました。
- ②イギリスでは、18 世紀に書かれた主な作品を読み尽くし、また、シェイクスピア研究の第一人者に師事、美術館や劇場に親しみました。
- ③その学問的成果を、帰国後、東京帝国大学文学部英文学科で発揮し、その内容は「文学評論(上)(下)」「漱石文芸論集」(いずれも岩波文庫)で読むことができます。
- \*「吾輩は猫である」はじめすべての漱石の作品には、イギリス留学の成果がいかに発揮されています。
- (4) ①漱石には、「漱石・子規往復書簡集」はじめ「漱石書簡集」や「漱石日記」(いずれも岩波文庫)があり、すべて文学作品として高い評価を受けています。
- ②「漢詩」や「俳句」も、多くの優れた作品を残しています。
- ③俳句は、高校の同級生、正岡子規から教わりました。「吾輩は猫である」は、正岡子規の弟子、高浜虚子が主宰した句集「ホトトギス」に掲載され、人気を博したものです。
- (5) ①大学予備門の同級生には、子規や南方熊楠(みなかたくまぐす)がいました。
- ②漱石の弟子には、第五高等学校以来の弟子、物理学者の寺田寅彦、文芸を志す谷崎潤一郎、志賀直哉、中勘助、芥川龍之介、野上弥生子などがおり、漱石の影響は計り知れません。
- ③寺田寅彦の随筆集「柿の種」(岩波文庫)はおすすめです。
- \*熊楠は、大英博物館で猛勉強。「読むことは写すこと。読むだけでは忘れても、写せば忘れぬ」と、「ロンドン書き抜き帖」を 52 冊作成。

漱石、子規、虚子、寅彦、龍之介、直哉、熊楠と読み進めていくのも、読書の楽しみです。

